

関 弁 連
環 境
シンポジウム

安全・快適な住宅に住む 権利の実現をめざして

～ヒートショック死続出、これでいいのか日本の住宅～

日時 | 2017年3月10日（金）17:30～20:00(17:00開場)

会場 | 日比谷コンベンションホール
(日比谷図書文化館大ホール)

東京都千代田区日比谷公園1番4号 日比谷図書文化館地下1階



参加 | 入場無料・事前申込不要

趣 旨

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターが行った調査では、2011年の1年間で、ヒートショックに関連した「入浴中急死」は全国で約17,000人と推計されています。この死亡者数は、交通事故による死亡者数の3倍をはるかに超えています。ヒートショック死を防ぎ健康に生きるためには、住宅の暖房（住宅内における温度差の解消）が重要ですが、いくら暖房しても建物が断熱されていなければ、単にエネルギーの無駄遣いになるだけです。そこで「断熱」が重要となりますが、住宅をはじめとした日本の建築物の多くは、他の先進諸国に比べて断熱構造が不十分と言わざるを得ません。断熱性能の向上、そのための施策は正に、人の生命健康という人権問題と言っても過言ではありません。

そこで、このシンポジウムでは、省エネと健康に生きることでできる快適な家づくりを実現するためにはどうすべきか、間もなく施行される住宅省エネ基準の義務化を含む住宅省エネ法制度の現状を分析しつつ、さらに必要な法制度を考えます。

皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 1 基調報告 「建築物省エネ法の現状とこれから」
- 2 講演
 - ① 「住宅における健康・快適性と省エネルギー」
講演者 田 辺 新 一 氏 (早稲田大学創造理工学部建築学科・教授)
 - ② 「住宅における省エネ～日独の違いとその理由」
講演者 千 葉 恒 久 弁護士 (関弁連環境保全委員会委員)

主 催

関東弁護士会連合会・環境保全委員会



関東弁護士会連合会
Kanto Federation of Bar Associations

会場案内

日比谷コンベンションホール (日比谷図書文化館大ホール)

東京都千代田区日比谷公園 1 - 4 地下 1 階

【アクセス】

- ・東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
- ・東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
- ・都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
- ・JR 新橋駅 日比谷口より徒歩約10分



講師紹介



田 辺 新 一 氏

早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科・教授
早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 住宅・建築環境研究所・所長

2014～2016 建築設備技術者協会会長

2015～ 日本建築学会副会長

2015～ 東京都環境審議会会長

2016～ 空気調和・衛生工学会副会長



千葉 恒 久 弁護士

1989年弁護士登録(修習41期・東京弁護士会)。

東京都出身。京都大学卒。92年渡独。93年から96年までフライブルグ大学(大学院)に留学。公法(環境法)で学位取得。

ドイツの再生可能エネルギーや温暖化対策の実情を紹介する。

本シンポジウムは、内容の記録及び成果の普及に利用するため、写真・映像撮影及び録音を行います。
また、報道機関による取材が行われる場合、撮影された映像・画像はテレビ・新聞等の各種媒体に使用されることがあります。

【お問い合わせ先】 関東弁護士会連合会事務局 TEL 03-3581-3838